

ご挨拶

早稲田大学 副総長・常任理事 江夏健一

本日、ここに早稲田大学産業経営研究所主催の第32回、産研フォーラムを開催するにあたりまして、テーマが「中小企業の大応援演説会」とありますから、私は大学を代表しまして、「小応援」のご挨拶をさせていただきます。

早稲田大学は1882年10月21日に設立されました。奇しくも明日が124回目の創立記念日でございます。124年前に、大学が創設されるに際しまして、私学でございますから、「志立」、つまりは志を持って立つ大学でありたいということで、建学の精神を明示する早稲田大学教旨を世に発信しました。

教旨は3つの柱からなっております。1つは「学問の独立」、次に「学問の活用」、そしてやや古めかしい感じがします「模範的国民の造就」、今の言葉に変えますと、世界のために、地域のために役立つ人材を輩出したいということを唱っております。

中でも2つ目の「学問の活用」は、今日でも新鮮です。つまり、大学人が象牙の塔にたてこもり、ただただ研究に従事するだけではなくて、大いにその成果を世界で、地域で発信をしていく必要がありますことから、実学志向で、具体的には教育面では商学部が、また研究面では産業経営研究所がさまざまな活動を展開しているわけでございます。

来年、125周年を迎えるということで、大学は、グローバル・ユニバシティを標語に掲げておりますが、これは「グローバルに考え、ローカルに活動する」ということだけではなく、「ローカルにも考え、そしてグローバルに活躍できる」人材や学問を輩出していかなければならないと考え、第二の建学の精神を高揚すべく、ただいま、鋭意さまざまな企てをしている最中でございます。

本日は、中小企業の大応援演説ということで、心で語る、ベテランの、あるいはこの道のエキスパートの先生方が講演をなさいますが、本日の講師の先生方は、心で語るだけではなくて、「中小企業の心を語れる」皆様方でもあると私は確信しております。

その意味で言いますと、私の後、挨拶とコーディネーターを務められます私の同僚でもあります鶴飼信一教授は、文字どおりの実学志向型の研究教育者であります。彼の通称は東京探検隊長であります。探検というにふさわしく学生とともに、ご自分の足で、とにかくさまざまな企業や現場に訪問を重ね、現場の経営者や職人さんから直接お話を聞き、学生とともに汗を拭き拭き作業を見学しながら「現場で現場を学ぶ」作業をやっておられます。

本日の講演会も、そうした探検活動の延長線上にありますから、今日ご参集くださいました皆様

方、そして私どもにとっても、大変有意義な講演会になろうかと存じます。

どうぞ最後までじっくりと諸先生方のお話をきかれ、そしてフォーラムの最後のディスカッションにも参画されて、有意義な一日を過ごしていただければと思います。

簡単ではございますが、これもちまして挨拶を終わらせていただきます。ありがとうございました。